

# 診療所システムと大規模病院システム

- 診療所＝200万円～
- 大規模病院システム＝数億円～
- 中小病院は？
- 機能はやはり病院特有の多職種連携ができなければ意味がない
- 結局数億円？・・・無理 無理 無理！
- うちの病院じゃ無理でしょ？
- パソコン？ 使えないし～ 今更電子化しても～

# 無理な最大要因は

- 導入費用の問題

収益にみあったシステムの費用？

人件費が減らせれば → なかなか難しい

収益増を見越して → これも難しい

やっぱ無理？

- 人的対応の問題

誰が電子カルテをお守するの？

システムに詳しい人員の配置は必要？

パソコンくらいは使えてもサーバーはちょっと

# 電子カルテで何が変わるか？

- 医師の仕事

他の職種にやらせていた仕事を自分でやらなければならないなど一時的に仕事は増える

しかし慣れてしまえば以前の何倍もの仕事ができることに気づく

- 看護や事務は間違いなく楽になる

# 紙カルテ時代では考えられない効率化

- どこでもカルテを開くことが可能
- カルテを持ってくる、探す、運ぶ、紙の補充、書き込む、しまいが無くなる
- 当院の場合、最初の半年はカルテを出していたが現在は完全に出していない
- 事務の日々の作業では残業はほぼゼロ  
(外来患者終了とともに業務終了)

# タイムリーな経営資料

- 電子カルテは基本的に診察が終了した段階でレセプトが完成していると言っても良い  
入院の場合は若干手続きが必要だが
- 毎日の診療が終わればその日までの実績が分かって当然
- 予算に見合った患者数 & 日当単価の把握
- 他部署のモチベーションを高める工夫
- 高額医療機器を買ったがペイしているの？

# タイムリーな経営資料その2

- 前日実績＋前日までの当月状況を毎日全職員が把握すること
- 各部門の実績をわかりやすく知らせる
- 病院管理部門は前月が終わったら即数値化
- 経営的把握は前月の収支は翌月20日迄に行えるように
- 当たり前のようにだが案外できていない病院は多いと思われる(実際当院がそうだった)

# 結果として経営が明るくなる

- 暗中模索的経営から明確な数値の把握  
トップが明るい顔をすればその背中を見ている職員も必然的に明るくなる
- 経営結果をきちんと病院全体に知らせることでモチベーションも高まる  
職員のやる気の無い病院には患者も集まらず良い評判も生まれない
- 次の一手を打つ 玉(人・物・金)の判断材料が的確なものとなる
- 電子カルテを良き道具として活用すべし  
電子カルテが無くてもできることでもある